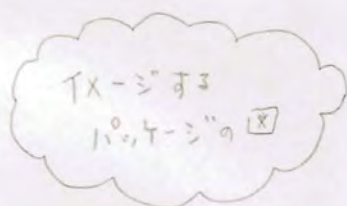


<商品名およびその制作方法など>



社
叢
一
片

*
*
神
社

『 社叢一片 **神社 』

中味は端的にいえば木片たちの詰め合わせです。夏休みなど、子供たちの自由研究の工作用にと、小さめの木片が詰め合わされて売られているのをホームセンターなどで目にしたことがあると思います。あの、小さい版です。

ひと袋に5、6個も入れば十分でしょう。大切なはその神社の木々の枝や、間伐材であること。持ち帰り鎮守の森の出来上がりです。

使用木は、ナラ、シイ、アベマキなどHPにも載っているような有用木がメインですが、つる科の植物やどんぐりなどが入っていてもまた面白いとはおもいます。

<制作意図>

鎮守の森を持ち帰る。ご利益よりも思い出を持ち帰りたい人のために、社叢をお裾分けいただく商品を考えました。

これは私の体験です。

私は旅行の際にはその地の神社などをよく訪れます。思いもしない土地で、昔ながらの神社が土地の人達に愛され守られている姿と出会えると、なんだかとても心が清々しくなるのを覚え、その出逢いに感謝さえしたくなります。

でもそんなとき困るのがお土産です。思い出に記念の品が欲しいのだけど、スタンプラリーや観光地のペナントとは違うわけで、やたらめったらに御守りやお札を買い求める気にもなれません。まして友達へのお土産に至っては、いくら素敵な神社だったからといって、いきなり御守りを渡すのも何だか気が引け、結局のところ近くのおみやげ屋に寄り、無難に饅頭などで済ますということになっていました。

だから、信仰やご利益などといった宗教性を意識しすぎること無く、その地を訪れ体感した心地よさを忘れないような記念品。たとえば海を訪れた時なら、子供が拾い帰る貝殻のようなもの。そんなイメージで気軽に手に出来るものが、神社の社務所にも並んでいたら嬉しいのという常々の思いで、この商品を企画しました。

私のように何かをお願いしたいというよりは、樹々に包み込まれるあの雰囲気身に置きたくて神社へと出向いている方はいっぱいいらっしゃると思います。そんな人にとってこの商品は、きっと自分にも、そして大切なお友達にも、連れて帰りたくなる一品だと思い、ご提案します。

癒しブームの折、天然木には様々な効果があると言われていますが、神社の樹々たちが醸し出すその効果は、イメージも相まって、効き目倍増やもしれません。

値段は350ー500円ぐらいのイメージ、御守りや鈴たちと並んで、神社の社務所横で売られる感じです。

しかし売り方によっては、1000円以上も可能だと考えます。その際は、年中置いてあるというよりは、ある時期だけ、鎮守の森から分けていただける有難いものとして節分どきの豆のように売り出すという手法もあると思われます。

生産ラインについても、この商品はその神社ごとに生産可能です。

どんな地でも生産が出来、どこも社叢も森もまんべんなく守ることが可能です。

というよりむしろ、その神社ごとに作る事にこそ意味があるのです。

ということは、お手伝いも必要となり、氏子さんとの繋がりも強くなったり、しいてはその土地の雇用（ちいちゃな小さなものかもしれませんが）が生まれます。

もっとも大切な事は、手入れをし続けることが商品を生み続けることとなり、継続的な社叢と人との関係を構築してゆくことが可能な点です。

作業的には、手入れをする庭師さんや氏子さんが斬り出した枝などを乾燥させたり、袋詰め用にする作業が生まれることでしょう。

木の種類にもよるでしょうが小さくする作業は糸鋸とかで出来るなら、地域にある障害者の方たちなどの作業場に依頼することも可能でしょう。友人がそのような施設で先生をしており仕事の確保を難しいと言っていたので例に出したのですが、そのような施設に限らず、ボランティアの老人の方たちのお力をかりるなど、とにかく地域との繋がりを生む商品作りをすることが可能であり、私はそこが大切だと思います。

なぜなら、どんなに有名で立派な神社でも、また大きく無い神社なら尚更のこと、社叢を守り続けていくには、ずっと関わってくれる人たちを見つけ、その輪を育ててゆくことがもっとも大切なことだと考えるからです。